

江別第一中学校 学校だより

純誠



教育目標

- ・自ら進んで学び未来を創造する生徒
- ・豊かな心を持ち互いに協力して生活をもつ生徒
- ・強い意志と体力を持ち、進んで努力する生徒

令和2年12月23日号 第13号

良いお年を！

江別市立江別第一中学校
校長 新田 元 紀

◎ 流行語大賞・今年の漢字

流行語大賞のベスト10にはコロナ関連の言葉が5個入り、大賞は「3密」でした。そして、今年の漢字も「密」。やはり、残念ながら2020年は「新型コロナウイルス感染症」の年として記憶されそうです。

予定では東京オリンピックが開催され、メダルラッシュで「五輪」の年として記憶されるはずだったのですが……。

◎ 感染症を乗り越える

以前も書きましたが、人類が乗り越えられなかった感染症はありません。ヒトを宿主とするウィルスは宿主が絶滅しては自分たちが生きられませんから、楽観的なことを言えば、人類は、この新型コロナウイルス感染症を乗り越えます。

人類として感染症を乗り越えてもヒト（＝人間）の犠牲者はできる限り少なくしなければなりません。したがって、その闘いが、今現在続いているということになります。

◎ 乗り越えてきた

2009年、新型インフルエンザが世界的に大流行しました。日本で感染者が出たときは、マスコミ等で大きく取り上げられていたような記憶があります。

そして、わりと早い段階で長女が感染しました。ぜん息持ちの彼女は、江別市夜間救病センターから手稲の病院に救急車で搬送されます。そして、まっすぐ集中治療室へ。

単身赴任中だった私が病院に着くと、「『死

ぬよ』って言われた…」と半ベそでした。

医者からは「これ以上病状が悪化したら気管切開になります」と、さらりと言われました。「簡単に死ぬとか切開とか言わないでほしいなあ…」と不満を感じながらも、もちろん心配です。

でも、何故かわかりませんが「絶対にそういうことにはならないだろう」と思っていました。

その後の回復経過は覚えていません。

でも、「絶対にそういうことにはならない」と思ったこと、信じていたことは覚えています。

父親の根拠なき思いと信じる力が通じたのか、娘は新型インフルエンザを乗り越えました。

「新型」も、今では「普通」のインフルエンザになっています。当時、20代の半ばの半ベそ娘は、今では「救急車じゃなくてドクターヘリがよかった…」と軽口をただいています。不謹慎というか、親の心子知らずというか……、親の教育が悪いというか……。

◎ 信じ抜くこと

「……信じ抜く事……それが一番大事」と、30年前のヒット曲のようなことを言いたかったわけではないのですが、ベタでまっすぐな歌詞が心にしみる2020年であったような気がします。（若い人にはちょっと何を言ってるのかわからないかもしれませんが……。♪下記参照）

◎ 良いお年を！

良くも悪くも、外出を控え、家族が家庭で絆を深める年末年始になるのだろうという気がしています。そして新年を迎えるに当たって、心の奥底に聞こえてくるような気がします。

♪ 負けない事、投げ出さない事、逃げ出さない事、信じ抜く事、駄目になりそうな時、それが一番大事！ by 大事MANブラザーズバンド「それが大事」

良いお年をお迎え下さい。